

## 〇まとめ 「自治体FM導入のススメ」

コーディネーター（松成 和夫 氏）

パネリスト（関 幸治 氏、池澤 龍三 氏、花山 俊春 氏、成田 宏之 氏）

### 【松成氏】

私がまとめ役ということでございますが、皆さんの方で御質問というのがあまり無かったようですので、今日の講演をされた方にはあと一言ずつ、言い足りなかったことというのを付け足していただこうと思っています。

その前に、今日、こういうFMの講演会、青森県主催の講演会で第2回目に講師で来て下さった東北大学の大学院の本江先生がいらっしゃっていますので、ご感想などを交えて地方自治体のFMに期待されるようなことというのをお聞かせ願えればと思います。

本江先生、よろしくお願いします。

### 【東北大学 准教授 本江 正茂 氏】

東北大学の本江です。工学部の建築学科におりまして、FMには関心を持ってやっています。大学の建築学科というと、ずっと新築が前提で、建物が足りないからどんどん造る、そのための教育をやるというのが普通でしたが、これまで話がありましたように、今では建物が余ってきておりますので、新築からファシリティマネジメントへと教育そのものもシフトしているところです。そういう意味でFMには関心を持っております。

今日、FMの実践をしていらっしゃる自治体の皆さんのお話をうかがって、やはり実践の話には、大変迫力があるなと思いました。こういう形で自治体の皆さんが情報を共有されている様子を見て、自治体のFMの気運が盛り上がっているなということをあらためて確認した次第です。

今日は出なかった話で、無かった話でちょっとこういうこともあるといいかなと思うことを申し上げます。それは、池澤さんが少し触れられましたけれども、都市間連携あるいは広域の連携の可能性です。普通の企業だとなかなかやれないことだけれど、自治体ならやれることで可能性があります。まずは、自分のところの島でという話からだとは思いますが、その次には、広域の連携があってしかるべきだろうなということを感じました。

東北の都市の特徴をすごく簡単に申し上げます。歴史的には、やはり雪があるので集住傾向が日本の他の地域に比べて高く、比較的密度が高い都市が多かったです。その周りに広い農地があって、都市と都市の間が離れている。都市間距離の平均は、日本の平均の1.4倍ぐらいあります。つまりコンパクトな都市がまばらにあるというのが東北の都市の特徴だったんです。それが高度成長期以降、だんだん市域がスプロールして大きくなりました。ただ、総人口は必ずしも増えていけませんので、密度が低い都市になっていった。さらに、トータルの人口が減っているということで、FM的なコントロールをしようとする最も厳しい薄くてまばらな状態になっているというのが東北の都市の現状です。皆さんは、その現場におられるということです。

でも、言い方を替えれば東北こそFMが必要な地域であって、FMの効果が最も劇的に現れる地区、地域なのではないかということもできそうです。雪国らしいムダのない身のこな

しで自治体のFMを進めていただければ、きっと青森発、東北発の面白い自治体のFMが広がっていくのではないかと、期待できそうだと、ということをして今日は一納税者として強く感じた次第であります。

以上です。ありがとうございました。

**【松成氏】**

本江先生、どうもありがとうございました。

それでは自治体FMのすすめということで、これを講師の皆さんに、これを言い足りなかった、あるいは自治体のFMで是非これだけはポイントで押さえて欲しいということを一言ずつ、関さんの方からお願いできますか。

**【関氏】**

計画的保全という非常に技術的なお話をしたのですが、結びに代えてということで、言いたいことは全部お話をさせていただきましたので、本テーマについて補足することは特にございません。公共には、優秀な方が沢山いらっしゃいます。仕事のやり方を変える、予算の使い方を変えるということでは是非、頑張っていたきたいと思います。

**【松成氏】**

関さん、どうもありがとうございました。

それでは続いて佐倉市の池澤さんに、何かこれだけは言っておきたいということをお願いします。

**【池澤氏】**

私は一言、もうとにかく本気度が試されている時だと自治体は思っておりますので、先ほど、グローバルとローカリーの話をしましたけれど、戦術と戦略というのをごっちゃにしないで、グローバルなものは戦略としていろいろと練るのは構わないと思いますけれども、戦術としての日々のことは忘れないで、本気度を出していきたいと、出さなきゃいけないだろうと思っております。以上です。

**【松成氏】**

池澤さん、ありがとうございました。

花山さん、一言いかがでしょうか。

**【花山氏】**

今回の移転の中でちょっと心配していたことがあったのですが、懸念に終わったわけですが、前は、オープン的なスペースを設けることで職員の方が個々のプライバシー的な部分が配慮されていないということで、ストレスが溜まって大変なことになるんじゃないかと、そういう懸念をしていたわけですが、今のところ、そういうことは無いみたいなので安心してます。逆に、オープンで見渡せるような雰囲気、客からも見られているという、ある程度の緊張度もあるでしょうし、それからそのスペースを部長から一般職まで全て共有しているわけですから、業務の点でも一緒になって仕事をやるという、そういう雰囲気がかもし出されているのかなど。まだ移って半年経っていませんので、そこら辺をレイアウト的なものというのも将来検証してみるのも面白いかなと思っています。

**【松成氏】**

私の方からの質問ですけれども、花山さん、利用者の満足度調査とか、あるいは市民の満足度調査とか、そちらの方はやられる計画がございますか。

**【花山氏】**

今のところ計画は、立てておりません。ちょっと怖いという気もします。どういう反応が来るか。でも、総合窓口がありますけれども、その部分で市民の要望とか意見というのを帰られる時に受けています。それをデータとして溜めておりますので、その中では、苦情と言うのはあまりありません。今までの市役所に比べて、明るくて広くて大変いい雰囲気だと、職員のモチベーションも高いんじゃないですかという、いい意見が聞かれているところです。

**【松成氏】**

是非、その辺もきっちりと利用者満足度の調査をされて、データとして作っていかれると今後のすごくお役に立つことが多いと思うんですね。そのレイアウトの検証にしろ、いろんな場面でお役に立つと思いますし、それからそういう意味で言うと、利用者と市民の皆さんとの対話の材料にもなっていくことだと思いますので、是非、またそんなことで活躍ができればなと思います。

さて、せっかく青森県で主催をされた講演会でございますので、青森県のFMはどうなっているのか、あるいは青森県のFMをやった立場から、地方自治体の皆さんに是非これは聞いていただきたいということが何かあるだろうということで、青森県の成田さんに登壇していただきましたので、青森県の御意見というのをお聞きしたいです。成田さん、お願いします。

**【成田氏】**

青森県の成田です。よろしくお願いします。

県がFMに取り組んできたこれまでの約6年を振り返りますと、一言で言って、非常に時間が掛かった、イメージの倍の時間が掛かったという感想を持っています。

FMは、内部管理業務になりますけれども、既存データの収集分析、内部調整、職員への浸透、どれ一つとってもすんなりいくものではなく、手間が掛かるものと実感しています。

取り組み内容としましては、最初に、清掃や機械警備業務の委託適正化、次に、行財政改革や教育改革の統廃合施設の利活用、遊休施設の玉突き移転の企画提案、そして、職員公舎の集約、売却事務の委託化といろいろ実績はございますけれども、どちらかと言えば、やり易いことに手を付けてきたと考えていまして、その意味では、改革というレベルというよりは改善のレベル、本格的なFM推進に向けての地ならしが出来た段階と受け止めております。

これからですが、まず、高度成長期に建てた施設の山がございますが、これは、全国の自治体に共通しておりまして、今は負の遺産と化しています。これをどうプラスに持っていくのか。また、今後の少子高齢に対応できるように、どこまで施設ダイエットができるのか。これらを「資産戦略」として挑戦していきたいと考えています。

社会情勢がめまぐるしく変わる世の中ですけれども、先行きが不透明ですから、スピード感が大事だろうと考えております。本県のように時間が掛けないで行うためには、自治体間の連携、情報交流、情報共有が有効だと思います。

一番大切なことは、手遅れにならないことだと思います。これからFMを始めようという場合は、物まねであったり、いいとこ取りであったり、まずはそれで構わないと思います。

来週、東京でJ FMAフォーラムがありますけれども、同時に自治体FMの広域的な交流の場である推進会議が発足します。これは神奈川県が呼びかけまして、青森県も幹事になっており、現在、全国約100近くの都道府県、政令都市、市町村が参加を表明しており、県内では黒石市がエントリーしています。これらの動きから自治体のFM導入が全国的にブレークする予感を覚えています。

最後に、会場の市町村の皆さんに呼びかけたいと思います。「これからは是非一緒にFMに取り組みましょう。」以上です。

#### 【松成氏】

成田さん、ほとんどまとめのようなことをして下さいましたので、私からもう何も言うことではないような感じでございます。

最後に私の方から一言申し上げると、実は青森県さんの事例から非常に大きく学ぶことと、その内の1つは、新しい業務管掌を作ってきたということなんですね。業務管掌としてファシリティマネジメントに関することというのは、これは、全てFMの担当セクションがやるという形で、新しい業務管掌を作ったというところが、ここは皆さん参考になると思うんですね。佐倉市が、池澤さんが御紹介されたように、横串を刺すということがありますが、首長さんの応援があれば、この横串を刺す委員会とか、プロジェクトチームとか何かできるかもしれませんが、やはり必要なのは、プロジェクトチームにしる委員会にしる、ちゃんとした固定的な組織体制にしる、業務管掌でここからここまでというやつをどうしても獲得してこないといけないので、FMに関する業務管掌というのは、全部こっちというふうにして、その中で先ほど私が言った保有と使用を切り分けるとか、あるいは専門家に計画保全は任せるとか、あるいはデータというのはそういうことで、FMに関するデータは、全部うちでという形で全部データを集める権限を持ってしまうというようなことでやる。そういうことでFMは、多分推進していくだろうと。

もう1つ、最後に、そのために成田さんは6年掛かってやっとここまで来ましたが、私のお薦めは皆さん、是非、FMをやっただいて、そのまま人事異動をしないで、6年はFMをやっして下さい。これをしないと定着しないですね。皆さんがそのように是非心がけて、首長さんはじめいろんな方々を口説いてくださることを期待しております。